

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ボランティア概論 Introduction to Voluntary Action		1年・2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(介護選択必修科目)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
なし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
なし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
松崎勇人	本館2階	月曜と金曜の講義のない時間		授業中に指示します
授業の概要				
ボランティア活動の大切さを知り、より良い社会を作るために何ができるか考えて、自らボランティア実践できる様な態度を育成し、ボランティア活動に関する基本的知識を理解させる。				
授業の目標				
①ボランティアとボランティア活動の意味を他者に説明することができるようにする。 ②ボランティア活動の機能による分類の利点を他者に説明することができるようにする。 ③特定非営利活動促進法の要点を他者に説明することができるようにする。 ④ボランティア・コーディネーターの定義と役割を他者に説明することができるようにする。				
授業の方法				
講義形式で行うと共に、あるテーマについてのディスカッションを行い、自ら考え説明できるようにする。				
学習の成果（学習成果）				
①ボランティア活動の意味を認識して実践できる。 ②NPO法人を作るための手がかりを得ることができる。 ③様々な組織においてボランティア活動を促進するための案を作ることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス			
第2回目	ボランティアの理念			
第3回目	ボランティアの今日的意味			
第4回目	ボランティア活動の分類			
第5回目	ボランティア活動の現状			
第6回目	NGOとNPO 1、 概念整理 世界のNGO			

第7回目	NGOとNPO 2、 日本のNGO、NPO	
第8回目	NPO法 1	
第9回目	NPO法 2	
第10回目	NPO法 3	
第11回目	ボランティア・コーディネーターとボランティア・アドバイザー	
第12回目	ボランティア活動の動機	
第13回目	企業のフィランソロフィー（慈善事業）	
第14回目	ボランティア学習の楽しさ（試験）	
第15回目	これからの福祉社会とボランティア	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	70%	到達目標に示した内容に関する基本的事項を説明できるかどうかをペーパーテストにより尋ねる。手書きのノートを持ち込みを許可する。評価基準の詳細は講義中に説明する。中心的意味が説明できれば加点する。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
なし。		
履修上の留意点・ルール		
極力休まないこと。ノートをとること。積極的に討論に参加すること。私語はしないこと。		